

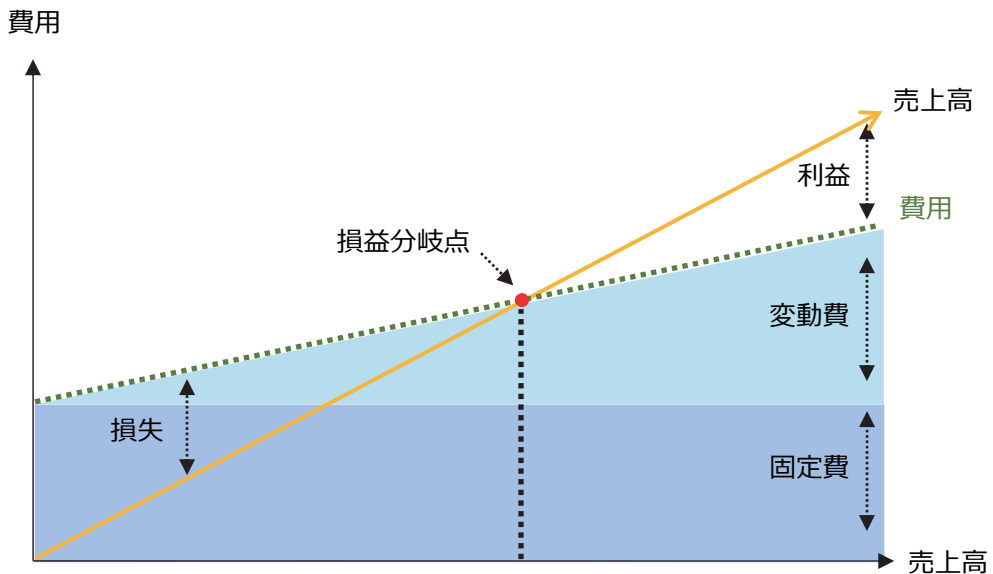
## 7 会計と財務

このセクションでは主に「損益分岐点」について解説いたします。試験では計算問題として頻出するため、必ず解けるようにしておきましょう。また、その他の試験によく出題される用語についても解説します。

### (1) 損益分岐点

損益分岐点とは、売上高と費用が等しくなり（『売上＝費用』）、損益及び利益が0になる点（ポイント）のことです。

費用には売上高に応じて変動する「変動費」と売上高にかかわらず発生する「固定費」があります。



#### ■ 損益分岐点売上高

損益分岐点売上高とは、利益がプラスでもマイナスでもなく、売上高から費用を差し引いた利益が0のときの売上高のことです。つまり、売上高と費用の額が等しくなる売上高のことです。なお、損益分岐点と損益分岐点売上高は管理会計上それぞれの意味に違いはありません。このテキストでは損益分岐点売上高を損益分岐点で統一して解説します。

## ■ 損益分岐点の計算方法

ここでは、あるコーヒー店を例に、損益分岐点の計算方法を解説します。

コーヒー店の前提条件は次のとおりです。

・ コーヒーの値段	: 500 円
・ 変動費（1 個あたり）	: 100 円
・ 固定費（ひと月あたり）	: 50 万円

### ① 売上の直線を求める

「売上の直線」を表す方程式を求めます。直線の方程式は、以下のとおりです。

$$y = ax + b$$

a は傾き、b は切片です。

売上の直線の傾きはコーヒーの値段（500 円/個）です。コーヒーが1 個売れることに 500 円の売上になるからです。

また、切片は 0 円です。なぜなら、コーヒーの販売個数が 0 個のときは売上も 0 円だからです。

この傾きと切片を上記の方程式に当てはめると「売上の直線」は次の式になります。

$$y = 500x + 0$$

### ② 費用の直線を求める

続いて「費用の直線」の式を考えます。費用の直線の傾きは変動費（100 円/個）です。コーヒーが1 個売れることに 100 円の変動費がかかるからです。

また、切片は固定費（50 万円）です。なぜなら、コーヒーの販売個数が 0 個であっても固定費は必要だからです。この傾きと切片を上記の方程式に当てはめると「費用の直線」は次の式になります。

$$y = 100x + 500,000$$

## ③ 連立方程式を解く

最後に、これまでに求めた2つの式を連立方程式にして  $x$ （販売個数）と  $y$ （売上高）を求めれば、損益分岐点を求めることができます。

$$(1) y = 500x$$

$$(2) y = 100x + 500,000$$

よって,

$$(3) 500x = 100x + 500,000$$

$$400x = 500,000$$

$$x = 1,250$$

これより,

$$(4) y = 500 \times 1,250$$

$$y = 625,000$$

上記の計算式により、このコーヒー店の損益分岐点は、販売個数が 1250 個で、売上が 625,000 円のところであると判断できます。

## (2) 財務諸表

財務諸表とは、企業の経済活動を数値で表したもので、主に以下の3つの書類から構成されています。

- ・貸借対照表 : 会社の資産、負債、および資本の状況が記載された表
- ・損益計算書 : 会社の収益、費用、及び利益または損失が記載された書類
- ・キャッシュフロー計算書 : 会社の営業活動、投資活動、財務活動における現金の流れが記録された書類

これら財務諸表を見ることで、企業の健康状態を把握することができます。

なお、ここでの企業の健康状態とは、財務の安定性、収益性、及びキャッシュフローの健全性を総合的に評価したものを指します。これにより、企業が持続的に成長し、健全な運営を続ける能力を判断することができます。

### ① 貸借対照表

**貸借対照表**とは、企業の特定時点における財政状態を示す財務諸表です。これには資産、負債、及び株主資本が含まれ、企業の純資産や財務的健全性を評価するのに役立ちます。資産は企業が所有する資源で、負債は企業が返済すべき債務、株主資本は株主からの資金提供を示します。この表は、流動資産や固定資産などの資産の種類や、流動負債や固定負債などの負債の種類を分類して表示します。なお、ITパスポート試験では資本金の位置について「資本金が貸借対照表のどこに記載されるか」が出題されます。資本金は、株主が会社に出資した金額で、純資産に分類されます。

### ■ 自己資本比率

**自己資本比率**とは、総資本に対する自己資本の割合です。簡単にいうと「会社にあるお金のうちの、自分のお金の割合」です。自己資本比率が高いほど、借金が少なく、企業は自己資金に依存しており、財務的に安定していると評価されます。逆に、自己資本比率が低い場合は、借入金などの外部からの資金依存度が高いことを示しており、財務的リスクが高いと考えられます。

自己資本比率の計算方法は以下のとおりです。

$$\text{自己資本比率 (\%)} = (\text{自己資本} \div \text{総資産}) \times 100$$